

病院事業会計決算

患者数は外来が1日平均176人、入院は58人で医業収益は約16億3千万円となっています。

これに対する医業費用は職員1111人の給与費や薬品費、光熱水費などが主な支出で約20億3千万円となり、差引で約4億円の医業損失となりました。

当年度純利益は約1億9千万円の黒字となりましたが、これは一般会計からの補助金として5億4千万円を医業外収益として計上したことによるものといえます。

平成22年度は、「市民病院のあり方を検討する会議」を設置し、経営改善策を検討するとともに、医療提供体制の見直しを図るため「埼玉県地域医療再生計画」に「市民病院再生構想」を提案し、関係機関との協議・調整を行ったところです。

さらに、市民の健康面での安心・安全づくりに向け、特定健診や人間ドックと同時に、がん検診が受診できるとともに、女性のがん検診受診率の向上をめざし、受診環境に配慮した総合健診センターの業務を行っています。

【表1】 市民病院患者数

外来	平成22年度	平成21年度	比較増減
総数	6万4,373人	7万6,755人	△1万2,382人
1日平均	176人	210人	△34人

小児科・小児外科	平成22年度	構成比
市内	1万2,011人	41%
市外	1万6,982人	59%
合計	2万8,993人	

入院	平成22年度	平成21年度	比較増減
総数	2万1,238人	2万3,844人	△2,606人
1日平均	58人	65人	△7人

小児科・小児外科	平成22年度	構成比
市内	353人	19%
市外	1,534人	81%
合計	1,887人	

小児科・小児外科における入院の約8割が、市外患者の利用となっています。市外患者の利用が多数を占める中、他市から病院運営にかかる負担はないため、市では小児救急医療確保に要する経費として、一般会計から1億2,000万円を繰り入れています。

【表2】 平成22年度病院事業損益計算書 (単位：万円)

①医業収益	16億3,314
内訳	
入院収益	8億6,853
外来収益	3億9,973
その他医業収益	3億6,488
②医業費用	20億3,272
内訳	
給与費	13億9,168
材料費	1億5,637
経費	3億9,339
減価償却費	8,643
資産減耗費	187
研究研修費	298
医業損失(①-②)	3億9,958
③医業外収益	6億2,853
(うち、一般会計からの補助金)	5億4,000
④医業外費用	3,635
経常利益(医業損失+③-④)	1億9,260
⑤特別利益	0
⑥特別損失	158
当年度純利益(経常利益+⑤-⑥)	1億9,102
前年度繰越欠損金	5億2,806
当年度未処理欠損金	3億3,704

1万円未満の端数については調整しています。

水道事業会計決算

平成22年度水道事業損益計算書 (単位：万円)

①営業収益	11億6,505
内訳	
給水収益(水道料金など)	10億1,223
その他営業収益(加入金など)	1億5,282
②営業費用	10億3,731
内訳	
浄水場の維持管理費	4億3,545
浄水場以外の施設維持管理費	1億2,390
総係費(検針業務費用など)	1億1,463
減価償却費	3億6,235
資産減耗費	98
営業利益(①-②)	1億2,774
③営業外収益	893
内訳	
受取利息及び配当金	839
雑収益	54
④営業外費用	9,704
内訳	
支払利息など	9,704
経常利益(営業利益+③-④)	3,963
⑤特別損失	209
当年度純利益(経常利益-⑤)	3,754
前年度繰越欠損金	1,145
当年度未処分利益剰余金	2,609

1万円未満の端数については調整しています。

当期純利益は、約3千700万円です。年ぶりの黒字となりました。事業収益11億7千398万円(主な収益)・給水収益(水道料金など)10億1千223万円

そのほか営業収益(加入金など)1億5千282万円・営業外収益(預金利息など)893万円
事業費用11億3千644万円(主な費用)
・浄水場の維持管理費4億3千545万円
・浄水場以外の水道施設関係費用1億2千390万円
・総係費(コンビニエンスストアでの納入や検針業務などの水道料金関係費用)1億1千463万円
・減価償却費など3億6千333万円
・営業外費用・特別損失(施設の建設改良などのために借り入れた借入金)の支払利息など9千913万円
また、1㎡あたりの水道水を生産するのに必要な費用は155円80銭、一方、販売価格は139円3銭となり、差引16円77銭の赤字が生じています。



問合せ/水道料金課 内線2713

話し、医療制度改革に対応した経営面での健全化に努めます。問合せ/経営改革課 ☎(472)9211